

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島水産高等学校
学校番号(41)

評価実施日		令和4年2月24日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	小林 哲	学校評議員、宇和島地区少年警察ボランティア協会	
	濱崎 貞夫	保護者代表、PTA会長	
	桧垣 俊司	学識経験者、愛媛県農林水産研究所水産研究センター長	
	広沢 初志	地域代表、愛媛県漁業協同組合宇和島支所 副運営委員長	
	西田 一洋	中学校関係者、宇和島市立城東中学校長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学習指導</p> <p>家庭学習時間については、考査中については2時間以上であるが、平日、休日も含めて1日平均2時間以上の目標達成に向けて取り組んでほしい。基礎学力充実のための校内テストは、80点以上の生徒40%以上を目標にしている。昨年度と比較して、漢字が8回→8回、英単語が6回→4回、計算力5回→6回となっている。さらに頑張してほしい。図書委員が本の魅力を紹介するなど工夫をして、本を読む生徒を増やしてほしい。</p> <p>(2) 生徒指導</p> <p>身だしなみ指導での再指導の数が減少していることは良いことであるので継続してほしい。退学者がかなり減少している。今後も協会会員が見回りを行うので協力していきたい。コロナ禍での制限はあったが、昨年よりは行事に参加できる機会が増えたことは良かった。交通マナーについても引き続き、加害者にも被害者にもならないように指導してほしい。</p> <p>(3) 進路指導</p> <p>進学においては、国立大学合格をはじめ第1志望校合格を達成することができた。就職については、コロナ禍の状況の中、学校幹旋については、全員内定、就職希望者の水産・海洋・食品系分野への就職が70%であり、目標が到達できている。</p> <p>(4) 業務改善</p> <p>多くの職員が有給休暇を取得することができたが、まだまだ遅くまで勤務している教職員もいると思われる。来年度以降も継続して、働き方改革に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>・家庭学習時間の少ない生徒の原因を把握し、担任が家庭と連絡を取りながら改善に努め、一人1台端末も活用しながら粘り強く指導を継続していく。</p> <p>・資格取得のための学習など、指導に工夫を凝らし、生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>・1年次から読書の習慣化がはかれるよう図書館の充実を図り、図書館を利用した授業やホームルーム活動等で、本に触れる機会を増やしていく。</p> <p>・基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、安全教育にも全教職員で取り組んでいきたい。学校行事等については、中止にするのではなく、工夫を凝らしてできるだけ開催できる方向で取り組んでいきたい。</p> <p>・善悪の判断ができるように、厳しくも優しい目を持って、生徒指導に努めていきたい。</p> <p>・面接指導の開始時期を早めるとともに、就業体験などの体験活動の機会を拡大する。</p> <p>・応募前見学を勧め、地元中心に学科の特性を生かせる事業所への関心を高めさせる。</p> <p>・担任との面談に加え、各科での指導も充実させたい。</p> <p>・校務支援システムの活用を推進し、一人一人の教職員への声かけ、意識の向上を図る。</p> <p>・メンタルヘルスの向上に一層力を入れ、教職員が心身ともに充実した職場づくりを行う。</p>
<p>2 説明・公表について</p> <p>(1) 教育方針がかなりレベルアップし、施設・設備も充実してきた。</p> <p>(2) 学校の情報発信にもっと努めてほしい。</p>	<p>・これからも様々な機会を捉えて、保護者や地域へ更なる情報発信を行いたい。また、内容の充実にも努めたい。</p>
<p>3 学校運営への提言</p> <p>(1) 成人年齢18歳を踏まえ、主権者教育の充実に努めてほしい。</p> <p>(2) 学校評価の生徒へのフィードバックを行うことによって、生徒からよいアイデアが出るのではないかと。</p> <p>(3) 学校存続のためにも、学校の魅力を発信し入学者数の確保に努めてほしい。</p>	<p>・教科だけではなく、学校教育全体を通して主権者教育の充実に努めたい。</p> <p>・生徒の意見も幅広く反映できるよう生徒会等との意見交換の機会を設けたい。</p> <p>・保護者・中学校への説明会や体験入学、情報発信の充実を図る。</p>